【ポスター発表】

# 超多様性下におけるソーシャルワーク教育・福祉教育の在り方に関する考察

## －日本における多文化教育の知見を参考に－

○　関西学院大学　　松岡　克尚（1808）

宮崎　康支（関西学院大学客員研究員・9599）、原　順子（四天王寺大学・1134）

キーワード：ソーシャルワーク教育、超多様性、交差性

### １．研 究 目 的

人類学者の Vertovec（2007=2020）が移民研究の中で提示した「多様性の多様化」を意味する「超多様性 super-diversity」は、欧州諸国が置かれている社会状況に適用できる概念として受容されている。グローバル化と人の移動拡大に伴い、日本でもその兆候が見出されるとの指摘もある（Phillimore et al. 2021)。

ソーシャルワークにおいても、例えば Julkunen ら(2023）が指摘するように、「超多様性はソーシャルワークの実践に大きな意味を持つ、急速に拡大しつつある社会現象」（p.613; 報告者訳）であって、超多様性による諸問題に対するソーシャルワーカーの向き合い方に関心が寄せられるようになっている。ただ、超多様性を取り上げた研究は端緒についたばかりであり、先の関心に対する回答は限られていると Julkunen らは述べる。こうした中で、ソーシャルワーク教育との関連で超多様性を取り上げた Hendriks & van Ewijk（2019）は、ソーシャルワーク教育者が多様性の増大に如何に対処しているか検討し、継続的な対話、学生を「変革の能動的担い手」と位置付けること、かつ多様な学生の受け入れの必要性を強調する。そこで本報告は、日本社会での超多様性の出現を前提とした今後のソーシャルワーク教育や福祉教育の在り方を理論的に考察することを目的とする。

### ２．研究の視点および方法

日本において超多様性とソーシャルワーク教育や福祉教育との関連を論じた研究蓄積が乏しいことから、多文化ソーシャルワーク、ソーシャルワーカーが獲得すべき文化的コンピテンス､そして多文化共生教育を論じた先行研究レビューの知見を活用することにした。

### ３．倫理的配慮

本報告は理論研究であり、「日本社会福祉学会研究倫理規程に基づくガイドライン」の「引用」の内容を順守し、特に自説と他説を峻別した。COI は存在しない。

### ４．研 究 結 果

Geldof (2016) は、超多様性と交差性は双方親和的であるが、前者は差異化のプロセス、後者は抑圧のパターンに軸足があるという。超多様性の下では交差的に抑圧が生じ得るのであって、ソーシャルワーカーはこれらの抑圧にどう向き合うかを学ぶ要素が、超多様性下のソーシャルワーク教育に不可欠であると示唆された。

小林（2022)は、「異質性」のある人との関わりやコンフリクトが「ほねのおれること」だという認識が存在する一方､「容易に理解できないもの」との接点が福祉教育・ボランテ

ィア教育の主題であったことを指摘している。そして「対峙」という概念を提唱し、「立ち止まってその場に居続ける時間であり、結果や答えを急がない態度」の涵養が重要になるとする。また隅広（2012）は、社会構成主義の教育観を「対話」であると指摘し、「学ぶ者を、スポンジのような受け身の学習者ではなくて、他者との対話を通して常に知識をつくり上げる者、知の創造者として捉えること」が重視されていると整理する（p.66-67）。

## ５．考 察

超多様性下では、「異質なもの」とのコンフリクトは当然のことであり、それを回避せずに「対峙」「対話」を行うことや、超多様性の進展は抑圧が一層複雑に交差するリスク増大と同義であって、交差性の視点と反抑圧的実践の要素を取り組むことが不可欠であると考える。福祉制度の枠内で「異質なもの」を捉えると、マニュアル化された対応を学ぶだけに留まることから、猪瀬（2023）が描写するように「異質なもの」との即興的な関わりを通して、その場に関わる身体、環境の全体との交互作用の全体（アッサンブラージュ）を意図的に教育場面に導入するなど、マニュアルに頼らない学習の意義が示唆された。

## 文　献


Boccagni, P. (2015). (Super)diversity and the migration-social work nexus: A new lens on the field of access and inclusion? *Ethnic and Racial Studies, 38 (4)*, 608–620.

Hendriks, P., & Van Ewijk, H. (2019). Finding common ground: How superdiversity is unsettling social work education. *European Journal of Social Work*, *22*(1), 158-170.

Geldof、D. (2016) . Superdiversity and the City. In Charlotte Williams(ed.) *Social Work and the City Urban: Themes in 21st-Century Social Work,* Palgrave Macmillan, pp.127-149.

Julkunen, I., Ruch, G., & Nurmi, A. (2023). Social work in a superdiverse society: an exploration of cooperation in professional practice. *European Journal of Social Work*, *26*(4), 612-625.

Phillimore, J., Liu-Farrer, G., & Sigona, N., 2021, “Migrations and Diversifications in the UK and Japan,” *Comparative Migration Studies*, 9(1): 1-18.

Vertovec, S.(2007). Super-diversity and Its Implications. *Ethnic and Racial Studies, 30*(6): 1024-1054. (=齋藤僚介・尾藤央延(訳), 2020, 「スーパーダイバーシティとその含意」, 『理論と動態』, 13: 68-97).

猪瀬浩平. (2023). それなりに整った世界で叫ぶ 家と施設でない場所で暮らす, 重度の知的障害のある人の意思をめぐって. *文化人類学*, *87*(4), 624-641.

小林洋司. (2022). 福祉教育・ボランティア学習における 「対峙」 の創生 「多文化」 共生の実質化を目指して. *日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要*, *39*, 67-81.

隅広静子.(2012).社会構成主義によるソーシャルワーク教育. *福井県立大学論集,39*,61-73.